

2023 構音・吃音指導講座参加者による『一言感想』集

コロナ禍もなんとなく去り？ 落ち着きを取り戻しつつある昨今、昨年の講座への感想をまとめさせて頂きました。

この度もまた、先生方の熱き想いに触れ、普段の自分の実践を見返してみる良い機会を得たと嬉しく感じています。

先生方のエネルギーを、間もなく始まる2024各講座開催のエネルギーに転換していきたいと思います。

また、この感想【含：皆さんの感想への梅村の感想やコメント、また、質問に対する回答】を、相談室のHPに掲載することをご了解いただき、ありがとうございます。

【お断り】

- ① 行替えは、本文と異なる場合があります。
 - ② ※○○の記述、及び、【●●】内の記述は、梅村の感想や意見です。
個人の感想に対して、多少厳しいと感じられるコメントを述べさせていただいた箇所が数か所あります。これは、決して、個人へ向けたコメントではありません。本講座に参加された全ての先生方に考えていただきたい内容と受け止めて下さい。
 - ③ ご本人の記述（書体=HG丸ゴシックM-PRO）の中で、赤文字にした部分は、他の方にも考えて頂きたいと思える内容です。
 - ④ 構音記号は、旧記号です。ご了承ください。
 - ⑤ 個人名は、所属を含めて全て記入しておりません。ですが、おおよその職種があったほうが良いと考え、以下の4種に分類し、番号の後に記しました。
A：通級指導教室（ことばの教室） B：病院・福祉関係の言語聴覚士
C：歯科クリニック関係 D：その他
- なお、自己申告で、次年度から通級指導教室とあった方は、Aにしました。

01B

同時音読について、前回まで、ほぼ「ダメ合っていない」のみで、何とか「今のならOK」と言っていた時にも、×と○の差が全く判らない状態での参加でした。

“地”のしゃべり方、声質がどもらせ易い事には、ずい分前に気付き、日々、語調を弱くトーンを落とす、)音量を落とす事に努力してきました。「楽に話している処に気付く」は研修会に参加し、解説してもらった時には「ああ これ?!」と何となく感じたものの、帰宅後再度ユーチューブ(?)を独りでみると、答が判っているからか、そう聞こえても1か月間を空けると「何でここ?」と判らなくなる一を繰り返しました。「ゴーカイレッド」の処も判ったのではなく覚えていたからです。

今回、参加者数を制限しているが、何回も参加している自分は初参加の人にゆする一と言う事は考えられず、今度こそ!との思いでの参加でした。初参加で、難なくムチャブリでも合やす事の出来る先生に“しつと”をしつつ、でもあきらめられない思いでいっぱいです。私が担当でなかったら、もっと楽になっているかもしれない子たちの顔を思い浮かべて、共調同時音読の実技。次回以降も、手ごたえをしっかりと持てるまで希望します。

側音は難しいとの“のろいのことば”を解いてからも、音を出す事が出来てもそこから般化へ進めずつまづく関係性は自らの原因と思いつつ、梅村先生のVTRを見ながら思ったのは正音が出せると、それに私が一喜して、せっかく模倣できるも、関係を壊していたなあ。それに、ほめる伝える事が絶対的に少なくなっているなあ「他人と過去は変えられない」改めて、明日からもう一度見直してゆきたいと思います。楽しくないだろうに、私に付き合ってくれている子たちに申し訳なく思いつつ。

※ “のろいのことば”が解けたとのこと、何よりです。さらに「側音への指導も、やっぱり楽しいじゃん」と発展していくことを願っています。

※ 指導技術っていうものは、専門書を何百回、何千回読もうと、獲得するものではありません。ある先生が、ある吃音の専門書に「子どもとお話をするとき、また、話かけるとき、“少し低めの声でゆっくり目に話しかけてあげるといい”」との記述を発見しました。そこでその先生は早速実践してみることにしました。さて結果は? その先生曰く。「子どもから、“先生、その話し方、止めて! 怖い!”と言われてしまった」とのこと。

では、専門書の記述が間違っているのでしょうか? 否! 『記述の内容』に『先生自身の発語技術』が適合しているかどうかの点検がないまま、実践したことに大なる過ちがあったのです。

「何回も参加している自分は初参加の人にゆする一と言う事は考えられず、今度こそ!との思いでの参加でした」、いいじゃないですか! 01B先生が関わる子どもたちにとって、素敵な先生であると思えるのは、梅村だけでしょうか。

02A

舌体操については、舌尖拳上(ポッピング)などそこまで必要あるのかと、依然から疑問には思っていました。[k]や[ke]の単音を言おうとすると側音化するが、得意な単語もあるので、分離して単音を発音させようと思いました。ただ、やはり、ふたべろ(いもべろ)にならないようにペロ平らは、方法はちがえど必要だと感じました。

つかえることばと無意味音節の指導に関しては、最近のゲームやネットのバグのあるプログラミングのまままだして、あとで修正する方法に似ていると感じました。無意味音節法(全網羅)だと子どもがきんちょうしているので、そこは課題だと思います。

自分が親ならと考えてみませんか！

構音への様々な指導法を10でも、100でも知っていてもいいのです！でも、知っていることが大切なことではないのです。

大切なのは、今目の前にいるお子さんについて「早期改善・早期終了を目指す構音指導」の観点から指導方法を選択し、実際に指導することができることです。

側音に限らず、誤り音のある幼児の親御さんなら「幼児であっても、指導し、入学までには正音に改善してくれる指導者」を探すのではないのでしょうか？

自分が親ならと考えてみませんか！

※ 一応確認しておきたいと思います。

本講座で視聴して頂いた側音化構音に対する構音(点)指導の場面は、

1 例目： 小学3年女児(まりさん) の側音化構音 [ʃi] [tʃi] に対する構音(点)指導で、指導開始18分後には、下顎の偏位のない、それでいて芋ペロにもならない、ごく普通の構音運動での「し」や「ち」が言えるようにした指導です。

何しろ、まりさんの構音指導は、その日に初めてまりさんに出会って、その日に行った構音(点)指導なので、舌を平らにする指導や舌の体操は、行っておりません。さらに、舌圧子や鏡も用いておりません。バタフライポジションやポッピングの訓練も行っておりません。

2 例目： 年長児女児(びいさん(通室10回終了))の側音化構音「チ・シ」への構音指導で、構音(点)指導1回目の [tʃi] の指導です。ごく普通の構音運動での「ち」になっていませんか？

2事例とも、ご視聴いただきましたように、フル視聴ですので、舌を平らにする指導や舌の体操は、行っておりませんし、舌圧子や鏡も用いていないこと、また、バタフライポジションやポッピングの訓練も行っていないことは、お分かりの事と思います。

ところで、O2A先生の「ぶたべろ(いもべろ)にならないようにペロ平らは、方法はちがえど必要」とのご指摘ですが、まりさんへの18分間の指導のどの部分にその指導を導入することで18分間より早く「ち」や「し」が言えるようになったのか、また、同様に、びいさんの場合は、どの場面に、どのタイミングで『べろ平ら』を導入すれば、構音(点)指導1回目で単音節「ち」のレベルではなく、『単語の語頭で言える』辺りの構音指導ができたのか、是非、ご教示いただければと思います。

決して、嫌みで言っているわけではないのです。

梅村が、目の前にいる指導対象者に向かい、その方に必要且つ十分と考えられる指導方法を選定する際の基準は、《早期改善・早期終了を目指す》指導方法であるのかどうか、この一点です。その観点を基準にして『べろ平ら』の指導や舌の体操・バタフライポジションやポッピングの訓練を導入

することで、構音指導開始から18分間よりも早く「ち・し」が導き出せるのであれば、今すぐにも、勉強のやり直しを行いたいと、真面目に強く思うからです。

※ 勉強不足ですみません。“無意味音節法(全網羅)”が分かりません。是非教えて下さい。

O3A

8/19 今日はありがとうございました。

これまで、いくつか動画を見せていただきましたが、子どもたちは練習、訓練という意識はないまま(特に幼児さんは)先生と楽しく遊んでいるうちに、楽に話せるようになる様子を見て、なぜこんなことが…と不思議でした。実際に先生のお話を聞いて、先生が子どもを中心にして声を合わせていること(そしてそれが反射的にできる)遊びの中に無理なく練習が含まれていること、自然なフィードバックで自覚ができるようになることが分かりました。

今回、自分で難しい!と感じた事。

・声が合わない!「たんぽぽ」の出だしの[み]が!でも後半は合わなくても「今は合っていない」のが分かるようになりました。初めはそれさえ分かりませんでした。

・ジャックの聞き取りで16ヶ所もたいへんでしたが、そのうちの4ヶ所を見つける課題で、何回か聞いても、その4つがポイントがはっきりさせられませんでした。その子にとっての楽な音を見つけるのは肝だと思うので、もっと耳を鍛えなければと思いました。

8/20 構音 こちらも約45分間の中で、すーっと目標音が出るようになる動画が、まるで魔法のようだと思っていましたが、びいさんの始めのやり取りを見て「子どもが一生懸命まねしたくなる関係」あってこそなのだと思います。途中チャイムが鳴った時のびいさんの「えっ、今日はこれで終わっちゃうの!?!」という不安げな顔、まだ続くことが分かった時の笑顔が、物語っていると思いました。

子どもが真似したくなるような人になれているか??自問しながら日々を送ろうと思います。

2日間、ありがとうございました。

O4A

吃音

子どもの音読(ジャックと豆の木)の中で、指導者のおさえるポイント2つ(その子の楽な声のところを見つける、指導で合わせやすい言葉を見つける)を教えてくださいました。再度、VTRを見て、ポイントを確認していきたいと思いました。

子どもとのゲームのやり取りの中でも、子どもの声の調子を見取り、すぐさま楽な声の方に導く様子を拝見し、その子どもの発する音の聞き取る力を身に付けていきたいと感じました。

構音

子どもと会ったときから指導に入っていること、その具体的な内容をビデオを止めていただきながら、ひとつひとつ解説していただいて、非常に勉強になりました。子どもが椅子に座り、シールを貼

り、沈黙の時間での対処の意味等、次のまねっこゲームまでの間の時間も、とても濃い時間であることを感じました。指導者のひとつひとつの言動にしっかり意味をもたせて行っていきたいと思います。

ビデオのよしきさんのようなお子さんもあり、人格形成しつつ構音指導もされていくということで、人格形成の部分のおさえが甘かったので、その部分も意識しながら指導していきたいと思います。また、いかに会話で使えるように持っていくか、語頭・語尾・語中という形式的なものでなく、目の前の子どもを見ながら、続けて言える、リズムをつけて言える練習に取り組んでいきたいと思いました。

O5A

茂君の「ジャックと豆の木」の楽な発語や、実技研修での子ども役の方の楽な発語のところを、自分で判断して見付けていくことが難しく思いました。目で見えず、一瞬で消えていくので、何度も経験、実習していくことで力を付けていきたいと思いました。

早期改善の指導を目指しているのですが、無駄な指導をしてしまっていると思いました。ことばの教室の先生の義務を果たせるよう、研修していきたいと思います。2日間、どうもありがとうございました。お休みのところ、スタッフの先生方も、ありがとうございました。

※ 「ことばの教室の先生の義務」、とても重い言葉に響きます。

O6D

吃音について相談を受けた際にどのような対応ができるのかが、よく分かりました。実際に指導を行える仕事ではないのですが(現在は)初期の相談で、私ができることが、沢山あると考えさせられました。吃りが出にくくなる声のかけ方、治ること、吃り症状ではなく、その子にとって楽に出せる声等、今日体験した事を活かしていきたいです。1回の面接の中でも伝えられること、できることを行っていきたいと思います。また、私が紹介する先の保健センターでは、どのような臨床を行っているかも、機会を作って、見てきたいと思いました。

※ “1回の面接の中でできること”のフレーズで思い出したことがあります。

それは、梅村がことばの教室経験6年目の頃の出来事です。知的発達遅延を主訴に来室された親子の話です。初回面接でのことです。親子を出迎えるために、教室の廊下で待っていました。母親からしっかり手を握られその子はやってきました。

廊下で母親とちょっと話を始めてしまいました。その間、子どもはというと、強く母親から手を握られているとはいえ、動き回りたくって仕方がない様子です。さすが子どもです。隙を見て、梅村の身体によじ登ってきたのです。すかさず抱っこをしてあげると、自分の顔を梅村の肩や背中や胸に鼻汁の溜まった鼻を刷り込んできます。

されるがまま子どもを抱っこしていると、その様子を見ていた母親の目から、涙が溢れてきたのです。「どうかされました？」と梅村。「今まで、相談できる施設・機関を数か所訪れたけど、家の子を抱っこしてくれたのは、先生が初めてです」「ある相談機関では、あからさまに家の子が寄って行っただけで避けられたこともある」「子どもが近づくのを上手くかわしながら、私と話をしていた先生もいました」とのことでした。

構音の臨床においても、沢山のレパトリーを教えていただいて、感謝です。子どもや親御さんの目線に立った臨床で、私の息子を担当して下さった先生も、この講習を受けた先生のようなので、とても幸運でした。私も、もっと構音の臨床に携わっていきたいと思いました。今回教わったことを軸に、行ってみたいです。

※ ただの『直し屋』として“構音”に関わるのではなく、“構音”を通して人と関わる仕事でありたいと思うのですが……ですね。

07A

吃音

「まけるな」の実技研修に参加するたびに思うのが、果てしなく道は遠い…ということです。そもそも、できているかどうかの聞き分けが難しく、梅村先生に見ていただいている時以外は、何だかよく分からないまま、繰り返し読んでいるだけの時間になってしまいました。1つ臍に落ちたのは、「考えないでやるしかない」という梅村先生の言葉でした。パターン化しないで、その場で子どもの声を聞いて合わせていくことが、自分にしみつくまでやるしかないんだと。合わせるだけでなく“先生”として、子どもを誘導していく立場にあることが難しい…ということは、普段どんなポジションで子どもと接しているのかと、ドキッとしました。

プレミアムコースのゲームでは「先生として指導すること」と「ゲームを楽しむこと」の両立が難しく、形式はゲームなんだけど、つまらない感じになってしまいました。そういえば、普段、構音の練習でやっているゲームもこんな雰囲気なることあるかも…。練習させようという、こちらの意図が出てしまっているからですね。今回も大変勉強になりました。

※ <早期改善・早期終了を目指す>なんていうのは、『練習させよう』の気持ち満々の状態です。

ただ、個別指導では、時間と空間を共有しているわけですから、まずは遊び感覚を優先し、二人で楽しもうということから始めてもいいんじゃないですか？

構音

まねっこをできる関係作りが一番大切で難しいと改めて思いました。その部分を詳しく解説いただきありがとうございました。「やっていること全てが指導」と言われても、意識が追いつかず、どんどん見逃してしまいました。解説を聞くと、私の予想の何手も先のことを考えて指導されていることがわかり、早期終了を目指している指導との差を感じました。これだけの指導を細やかに行っているのに、子どもにとっては、あくまでもゲームでずっと楽しんで、いつの間にか発音が直っている。こんな風に来てほしいなあ…まだまだだなあ…と。

今回の研修を参考に、また自分の授業を見直します。ありがとうございました。

※ 『授業』なんですかね？ 「子どもは、あくまでもゲームでずっと楽しんでいる」つまり、ただの遊びですよね。決して「ち」とは何ぞや。将来言語聴覚士になるために、どうやると「ち」が言えるのかの勉強をしようというなら『授業』と表現しても有かなと思わないでもないのですが。

08A

〈吃音指導講座〉

今回初めて梅村先生の講座を受講させていただき、吃音指導の方法や考え方など、私にとって衝撃を受けるものがたくさんありました。一番は、子どもが楽に声を出しているときを見つけるということです。今まで、自分は吃りにばかり注目していたと気づきました。茂くんの「ジャックと豆の木」の音読での楽な発語の状態を見つける時には、7つしか当たらず、楽な発語の状態を見つける技術を身につけたいと思いました。興味関心を素直に表現する子のビデオを見たときは、子どもが自分ですごろくをあきらめた様子や、子どもが自由に話し始めているうちに、すごろくで負けた様子を見て、吃音指導をしながらも、人間を育てるということを目指していかなければならないと感じました。

〈構音指導講座〉

びいさんの2回目の指導のビデオを見て、梅村先生のやること全てに意味があると分かり驚きました。大きいシールを出して注目させる、じゃんけんを模倣の関係をつくる準備をする、手先の器用さを見るなど、初めの関わりが関係をつくり、指導していくためにとても大切な時間なんだと分かりました。

ビデオを見てみると、びいさんが梅村先生のことを、よく見てまねしている様子がとても自然でした。

「まねしてね」とは決して言わず、じゃんけんやすごろく、お話の中で模倣の関係をつくっていくのが本当にすごいと思いました。側音化構音の[tʃ]の指導では、子どもの出来る構音運動を見つけて、できることから始めていくということ、目的音をイメージさせず、英語や変な音として練習していくことを学びました。

たくさんのことを学ばせていただきました。日々反省して自分の指導に責任を持って、子どもと向き合っていきたいです。二日間ありがとうございました。

09A

『吃り方に一喜一憂するのは止めましょう』

・夏休みが終わる今、まさに心しないといけないと思いました。充実した夏休みだったからこそ、吃る子いるはずなのに、誤った見方をしてしまう可能性もあったと思います。

・吃り方よりも、楽な声に意識を向けること、その声、話し方に合わせて話すことを、もっと意識していかなければと思いました。しゃべりやすいように、私がより自然な形で調整しながら、子どもが声を出すのが楽しい、その子その子自身の願いに合った活動をしかけて行きたいと改めて思いました。

『同じ志をもった仲間と学べる喜び』

・プレミアム講座では、指導者役の先生に声が合っているのかを、声がけする体験をし、いかに自分の判断が甘く、具体的に的確に伝えられない実態がはっきりした。自分のVTRを見ても見方が甘いことであり、自覚できることが大変いい経験でした。

・声が合っているかを聞く中で、指導者が緊張から、力が入り楽な声ではないのかなと思われる時があり、その時はなかなか合わないように感じた。構音指導での提示でも指導者の側が、力が入り脱力させ

きれないことが多々あったこととつながった。指導者が構え過ぎず、でも、自分の言い方を通すでもなく導く声となるいいバランスをとっていけるように研鑽を積みたい。

『指導の基本、関係作り+子どもにとって魅力のある自分作り』

・今年度ようやく[ke]の音作りが側音も置換も複数でスムーズに行く経験ができ、心がけたことを振りかえると、ここで学ばせていただいた「構音指導に入るまでの時間のつかい方」や「リラックスさせるかわり」が大きかったと思われる。前回の講座で、私自身の[ke]への苦手意識が「もしかしたら、そこまで難しくないかも」という状態で音作りができ、子どもも楽に模倣できたのだとも思う。先生のおかげと大変感謝申し上げます。

・しかし、万人に通用するわけではなく、音作りが進まず、関係を危うくし、この夏休み明けが勝負でもある。その意味で、自分に足りないことを気づかせていただいたり、新しい視点、レパートリーをいただけたのもありがたいです。事前視聴の動画、新しい様々な事例、臨機応変な対応…先生の熱意に大変エネルギーをいただきました。ことばの指導で、人間としてのプラスαを育てられる指導者になれるよう頑張ります。ありがとうございました。

10A

〈吃音指導〉

指導の様子動画を見せていただいたり、指導対象者の声に指導者の声を合わせる実技研修をしたりと、充実した研修ができました。楽な発語の状況を見出だしてあげることの大切さがわかりました。また、共調発語指導の演習では、指導対象者の声に指導者として声を合わせることの難しさも感じましたが、声が合った時は心地よく感じました。演習形式で実際に自分でやってみたことで、その心地よさを実感できたと思います。

〈構音指導〉

構音指導も学びの多い研修となりました。待合室から模倣の環境を作っていること、動画を止めながらの解説がなければ、見過ごしてしまいました。一つ一つの先生の行動に全て意図があるとわかりました。先を見通した「今」を考えるとともに、指導時間を大切にしていきたいと思いました。子どもたちにとっては遊びだけれど、構音指導は確実にできている。そんな動画をたくさん見せていただき「目からウロコ」がたくさんありました。

〈2日間通して〉

対面で梅村先生にお会いして話が聞けたことで、HPの動画では分からないことが理解できました。今回参加して、実際にお会いできて、本当に良かったです。

11B

今年度のはじめ、市内のことばの学級(教室)が閉級(室)となりました。4校一度にです。その中で唯一、自分のところが通級として再スタートしました。それにともない、閉級となった3校を、それぞれ通級担当者が1校ずつサテライトとして担当することになったのです。吃音の5年生がいる学校の担当となった私は、何かしなくてはと思ったのですが、本人は優秀で、吃音は治らないことが分かった

ので、ことばの教室をやめると7月の面談で言われショックを受けて、本日参加させて頂きました。午前中までは、吃音の部分にはばかり気になっていました。午後、演習になった時、どこまで子どもによりそう、子どもの声をきいて特性をつかんで、子どもの読み方に合わせる。これが大切なんだと思いました。申し訳なくなりました。今日、ここに参加させて頂いて本当に良かったです。ありがとうございました。

12A

置換でも側音化でも、今その子ができているものを使うということ、今できていることに着目して、それをどうしていくか、そこにどう+したり-したりしていくかということ、改めて学ばせていただきました。

側音化というと、むずかしい何か特別なことのように構えてしまう自分がいます。でも、その子にとっては、ただ何かの拍子に覚え誤っただけなんですね。

乳幼児期に、どんなふうにして音を身につけたのか、それをたどることばの指示(指示というか学び?)をしたいと思いました。大好きな大人のことを、よくみて、ただただ素直にまねして身につけていく関係の築きは、とても緻密なものでありますが、頭でぐるぐる考えながら、子どもにとっては楽しい遊びの時間とを関係を作っていきたいと思います。

厳しいよーときいていましたが、今日おもいきって参加しました。先生の子どもへの愛がいっぱいで、本当に温かい研修会でした。ありがとうございました。

13A

本日はありがとうございました。1度コロナ前に参加させていただいてから、2回目の参加ですが、前回学んだことが時間とともにやはり忘れていくことが多く、よい刺激になりました。指名されると思うとドキドキでした。

日頃、最も悩むのが、その子のできている構音をつかって、どう目的の音を導くかというところです。Pa→ma[鼻からぬいて]のように具体例をもっと知りたいです。子どもなんだから、子どもに合った指導のレパートリーをもっと教えていただきたいです。(自分でも考案していこうと思います)実際の指導場面を数多く拝見させていただきたいです。

前回の研修会で、口の体操は必要ない、[i]の指導から始めることもないと知り学び「なるほど!」と納得し実践していますが、本当にそうだと実感しています。出来るだけ早く終了(改善)できるように今日の学びも、明日からの子どもへの指導に還元していきます。

14A

もっと声を楽に出せるようにするには、どう指導したらよいか、ずっと課題でした。吃音にはばかり耳がいき、楽に発話しているところには、耳が向いていませんでした。

初めて「声を合わせる練習」をしました。難しいと思いましたが、「子どもの声を聞く・合わせる」ということが、少しだけ体験できたように思います。声を合わせてもらった時の心地よさも、体験でき

ました。自分勝手な思い込みが強く、まだまだ（指導に活かすには）練習が必要だと感じました。声を聞くこと、合わせることに挑戦しながら、声を出すことを一緒に楽しんでいきたいと思いました。

吃音も構音も、うまくできているところから。というのは同じだということを感じました。そして、全ての指導に通じると感じました。ありがとうございました。

15A

共調発語指導について、たくさん演習の機会を作ってください、スタッフの方々にも、先生ご自身にも教えていただき、とても良かったです。

「今、良い!」という時と「ん?」という時の違いを味わうことができ、良い経験をいただいたなと思いました。

- 音読の指導ではないので誤読の指摘はいらない。（つい、気になってしまうので…）
- 「～」から「～」までね。と読む所を指定すると、それがモデルになってしまう。（今まで支援級では具体的に読んで示せと教えていただいていたので…）という2点をいつも気を付けていきたいなと思いました。「何のためにそれをするのか?しないのか?」ということを考えて、目の前の子どもに関わっていききたいです。

また、自身も「こういう時にどもりやすい」という目で子どもを見ていたので、「ここは楽に言えている」という視点は目から鱗でした。早速、指導の映像を見返したり(先入観を持たずに)目の前の子どもと関わって、見取って指導や教材作りにいかしたいです。

16A

〈吃音講座〉

共調発語指導法について、共調同時音読と平行同時音読があることを学びました。実際の指導で活かしていきたいと思います。

吃音のある子どもが、どもるかどもらないかではなく、楽に発語できているかに気をつけながら、指導していきます。どうもありがとうございました。明日もよろしくお願いします。

〈構音講座〉

指示をしながら指導するのではなく、子どもの自発性を引き出すような指導をしていきたいと思えます。手の動きと舌の動きが連動することもあることを知りました。指導中に手先の器用さも気にしながら、進めていきたいと思えます。

どうもありがとうございました。また機会がありましたら、よろしくお願いします。

17A

〈吃音指導〉

子どもと関わるとき、「相手を知る」ことは大事だと思っていますが、共調同時音読を体験して、さらにそう思いました。頭でわかろうとすると、うまくいかず、常に相手の息づかい、読みに集中していると、合わせやすくなると思いました。

自分のこと（声の出し方、高さ、イントネーションなど）をよく分かっていないことが分かりました。

〈構音指導講座〉

子どもと遊びの関係になること、子どもにとっては常に遊びになっているようにしていく、よくない関係になってしまった時は、思い切って考え直す。まだまだ遊ばせ方は、工夫しながら構音の練習をしなければならんだと反省ばかりでした。

私の関わりが、全体的に力が入りすぎてしまうこと、できる構音を生かすことを考えながらやっていきます。子どもたちとの出会いが楽しみになってきました。

2日間の研修を通して、子ども（大人も）お互いに楽しい面白い関係が作れるように、日頃の自分のことは、対応は気をつけていきたいものです。おもしろい人間になりたいものです。

18B

吃音について、本を読んだり研修を受けたりしましたが、今回のように実践的で、一人一人にその場で、フィードバックをしていただけるような研修は初めてで、得るものの量が全然違うと感じました。読むだけ、聞くだけの学びには限界があり“理解したつもり”で臨床をしてうまくいかず、うまくいかない理由がわからないから、ひたすら別の本を読んで…という循環から抜け出せないでいる気がします。

研修参加前に、You tube で動画を観てから来ましたが、それに対して解説を受け、その指導の理由・真意について聞くことで、やっと何をしていたのかが少し分かった気がします。動画を観るだけでは、マネして似たような事をやっているだけになってしまい、“なぜそうするのか（同時によむのか）”が置いてきぼりで、上手いかわからないだろうと思います。指導の動画もあんなにたくさん見せて下さる研修は他に無いです。ありがとうございました。

構音についても同様に、“音をつくる”以外の時間、関わりの一つ一つ全てが指導という視点を、聞くだけではなく自分でも考えてから解説を頂くことで、自分の考えの足りなさを実感しました。構音点指導へもっていくためのプロセスが、いかに大切か、楽しく意欲的に取り組むために、指導者が何ができるのかを考えることの大切さを学びました。それには構音の状態だけでなく、知的・言語・運動の発達・発達特性・社会性・性格など多角的にみるよう、一人一人をしっかりと評価すること、その子に合った指導法を考えることを、もっと大切にしなければと感じました。

まだ経験が浅く、これからケースが増えるのですが、今回お聞きした内容を参考にしてやってみよう、頑張りたいと思えました。

19B

・自分の指導を振り返ってみると、私が思う楽な発語（一般的に言われている、ゆっくり、やさしく、やわらかく話すこと）に、子どもの方が合わせるといった指導をしていたと反省しました。そこには、“子ども一人一人にとっての楽な発語”といった視点は抜けていたように思います。指導の中で、今回学んだ視点を忘れずにいかしていきたいと思います。

・構音指導については、今までのケース、今指導しているケースについて、なぜうまくいかなかったのか、うまくいっていないのかについて、気づかされることが多くありました。原因は、子どもではなく自分自身の指導の仕方にあることを、先生の指導を見て気づくことができました。先生の指導で、子どもがどのように変化したのか、実際の様子を見せていただき、とても勉強になりました。ありがとうございました。

20B

言語発達促進も必要…しかし吃音や構音の訓練もしたい…というお子さんの指導場面を拝見させていただきたいです。発語自体がゆっくりだったり、そもそもの模倣行動が苦手だったりするお子さんの訓練の様子を、拝見させていただきたいです。

本日の講座を受け、大変勉強になりました。貴重なお話をお聞かせ下さり、ありがとうございました。

21B

構音指導の前の模倣の環境作りについて、詳しく解説していただき大変勉強になりました。また、子どもに合った指導、1回目の指導から終了を見通して指導することの大切さを知ることができました。

22A

事前に動画を視聴し、梅村先生の文献を拝読させていただきましたが…。まだまだ勉強不足と感ずることが多かったです。課題については、半分も当らず、大ショックでした。耳もしっかり鍛えていきたいと思ひます。

梅村先生が解説を加えてくださったので、理解を深めることができました。と思ひていましたが、梅村先生が私の質問に対し、丁寧にお話して下さる中で、全然理解できていないことが分かりました。明日から、学びなおしたいと思ひます。目の前にいる子どもたちひとり一人に合った指導が、できるように…。愚問だったようで、お恥すかしい限りです…。親身になってご指導くださり本当にありがとうございました!!

短い時間でしたが、梅村先生に共調発語指導について、直接ご指導いただき、嬉しかったです。子ども役の私に梅村先生が合わせてくださり、心地良さを感ずることができました。

一番心に残ったのは、梅村先生の“声を出すことを一緒に楽しむ”という言葉です。子どもの気持ちを第一に、これからも一緒に楽しく学んでいけたら…と思ひます。本日はありがとうございました。

すぐに子どもが模倣する環境を作ることの大切さを学びました。

いかに子どもに指示しないで、こちら(教師)に注目させるのか…。

今までは、お気楽に、〇〇さんは、こんなシールを選んだんだねー、なんてのん気に構えていました。舌の動きと手指の動き(特に指先)が連動しているのですね…。これからは見落としのないようにしたいと思ひます。今まで、構音指導のプロセスについて、ここまで詳しく話したことがない、とおっしゃっ

ていましたが、先生の一つ一つのしぐさ・動作について、どのような意図を持ってやっていらっしゃるのか、丁寧にお話して下さり、よくわかりました。“45分、無駄にしない授業を…”という梅村先生のお言葉をしっかり胸に刻み、日々努力してまいりたいと思います。

終了判断について、日常で課題音がきちんと習熟できているか、立ったまま、上を向いて、寝ながら、ほおずえをついて、腕たせ伏せ…等々、様々な状況で言えるよう、子どもと一緒に楽しみながら取り組んでまいりたいと思います。

二日間にわたり、大変お世話になりました。本当にありがとうございました。

※ 人一倍、想いのこもった感想との印象を持ちました。原文をそのまま載せたい衝動を抑えきりました。先生の想いが伝わるようにおこしてあるか、心配です。

※ “45分、無駄にしない授業を…”とありましたが、恐らく聞き誤りでしょう。または、先生自身が普段子どもとも関わりを“授業”と捉えているので、自然に“授業”に聞こえたのかもしれない。(07A先生へのコメントを参考に)

23A

2回目の参加です。ありがとうございました。なぜだか分からないけれど、構音運動を間違えて覚えてしまった子たちのように、「側音化構音の指導では舌平らの練習」をするものと覚えてしまった自分がいました。強く意識する機会をもたないと、同じ指導を繰り返してしまいそうだったので、数年ぶりに参加いたしました。「余計なことはしない」は、今後気をつけていきます。ぎこちない構音動作で、意識してようやく言えている子がいます。舌平らをしつこく練習してきた子です。楽に音が出せるようになるよう、その日の子どもができること(出せる音)から指導を進めていきます。

24B

今回、3回目の参加になります。1回目はお話の濃さに未熟な自分についていけず、2回目は必死にメモをとってケースの方に持ち帰って良い支援をと思い、3回目、経験を多少つんで参加しましたが、まだまだ未熟で至らない支援をしているなあと痛感いたしました。自分の5倍も経験を積んできた(50倍500倍ですね)方からお話を聞ける機会は本当に貴重で、楽しみと自戒の意味でも身にしました。

悩むことが多く、先生からほめていただけて嬉しかったです。またがんばれそうです。

ビデオですが、指導員側の口の動きもみてみたいです。正しい口の動きが知りたいと思いました。(マスク生活で口元が見えなくなっているので、余計に…)走り書きで申し訳ございません。

25A

〈吃音指導講座〉

・実技指導の中で、直接梅村先生やアドバイザーの先生からフィードバックを受けられて、大変勉強になりました。特に今回は、自分でもびっくりするくらい「合わせられない」という経験をして、色々なタイプの人をつかまえて、もっと練習してみたいと思いました。逆に、梅村先生が自分の声に合わ

せて下さった時に感じた「フワッ」とした感覚は忘れられません。又、自分の話し方が吃音を誘発しやすいことも教えていただきましたので、日常的に気をつけていきたいと思います。

- 今回、双六や絵カードを使った指導について取り上げていただいて、「楽な発語」を社会化するまでに、様々なアプローチやステップがあることを知ることができました。自分ができる指導のバリエーションがとても少なかったので、「声を出すことをいっしょに楽しむ」ことをはずさないよう気をつけながら取り組んでいきたいと思いました。また、今回のお話で「発語指導プログラムの全体像[SPT]」が、具体的にどういうことを言っているのか、理解することができました。(今さらですみません)。もし可能でしたら「劇化」「ごっこ遊び」などについても取り上げていただけたら有難いです。(但し、ゲームに頼りすぎないように、ということも気をつけていきたいと思います)

〈構音指導講座〉

- 今まで、先生がどのような方法で音をつくっていくかに、目をうばわれてしまっていたのですが、ようやく、指導の方向性や全体像が見えるようになってきて、「このために今、先生はこのようなことをしているのだな」ということを予想しながら、VTRを見られるように少しなってきたように思います。(先生からの質問に答えられないこともたくさんありましたか)
- 先生が構音の指導に入るまでのことを、詳しくVTRで解説して下さい、改めて、子どもとの関係性の重要性を痛感しました。